

## プロフィール

### ● 所 克 頼(サクソフォン) *Katsuyori Tokoro*

岐阜県出身。関高等学校卒業。名古屋芸術大学卒業。同大学定期演奏会、卒業演奏会出演。ヤマハ管楽器新人演奏会、岐阜県新人演奏会、岐阜市民芸術祭など出演。渡米し、インディアナ大学音楽学部パフォーマンスディプロマ修了。帰国後、名古屋芸術大学大学院音楽研究科修了。第6回横浜国際音楽コンクール第3位。第3回飛騨河合音楽コンクール第2位(1位なし)。2009年よりリサイタルなど開催。ファブリス・モレティ、ユージン・ルソー、ジョナサン・ヒルトン各氏のレッスンを受講。これまでにサクソフォンを遠藤宏幸、雲井雅人、三日月孝、オーティス・マーフィーの各氏に師事。現在、フリーのサクソフォン奏者としてソロ、無伴奏、室内楽、エレクトロニクスとの演奏や講師など東海地方を中心に活動。デュオ・ピクニック、クレセントカンパニー、妄想会議、竹林笹頼、竹森笹頼、ユニーター・デラ・サックスメンバー。

### ● 伊 藤 美 由 紀(作曲) *Miyuki Ito*

愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了後、コロンビア大学(ニューヨーク)で作曲をトリスタン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員として IRCAM (フランス国立音響音楽研究所)にて研鑽を積む。世界各国のコンクール、音楽祭に入賞、入選し、国内外で作品の発表を続けている。また、ニフエール、JUMP (Japan-USA: Musical Perspectives/日米.新しい音楽の展望)の代表として自主企画公演を定期的に展開。ニフエール第10回公演は、第14回佐治敬三賞受賞。《時の砂》がALCD80からリリース。ミラノのスヴィーニ・ゼルボニー出版社からフランコ・エヴァンジェリステイ国際作曲コンクール優勝作品《古代の息吹をしのぶ。。。》の楽譜出版。執筆活動として、『音楽現代』に特集記事や公演批評を寄稿。メキシコのコンピュータ音楽雑誌『Ideas Sonicas』に自作品の分析論文(英語)が掲載。名古屋芸術大学、千葉商科大学、愛知県立芸術大学大学院、愛知県立大学、四川音楽学院(中国)などで、後進の指導にもあたっている。 <http://www.miyuki-ito.com>

### ● 若 井 真 由 夏(銅版画) *Mayuka Wakai*

愛知県瀬戸市生まれ 名古屋芸術大学美術学部卒業 フランスディジョン美術大学で版画に触れる。

2012 カフェギャラリールベールヴィル(長野県大町市)にて初個展『Le temps retrouve』

2012.13.15 ハートフィールドギャラリー(名古屋市)にて個展

2015/2016.6 カダケス国際ミニプリント展(スペイン)入選

2016 "Participating artist" of 2nd International "Enter into Art" Installations 2016, at Cologne (ドイツ)

2016.6 レッセドラ国際ミニプリント展(ブルガリア)入選

2016.6.7 フランス、パリ Cite' international des arts にて制作

2016.9 山画廊(四日市)にて個展

2016.11 galerie-tokonoma(フランス・パリ)にて個展 2017.1 ギャラリードゥ・セーヌ八事(名古屋市)にて個展

### ● 茨 木 博 史(フランス語圏文学) *Hirofumi Ibaragi*

リール第3大学(フランス)大学院修士課程修了。東京大学大学院博士課程単位取得満期退学。専門はアルベール・カミュを中心とする20世紀のフランス文学、および、マグレブ(北アフリカ)のフランス語文学。近年は日本の昭和期のフランス文化の受容の歴史にも関心があり、特に1950年から60年代にかけてのカミュやサルトルをはじめとするフランスの哲学や文学を、当時の日本の知識人たちがどのように受け容れたかについて研究を進めている。論文に、「カミュを読む中村光夫—『異邦人』論と翻訳—」(2012年)や「Entre l' Histoire et la Terre : Camus et son rêve de l' Algérie des « innocents »」(「歴史と大地の間で:カミュと『罪なき者ら』のアルジェリアの夢」)(2013年)など。2014年より南山大学総合政策学部専任講師、他に愛知県立芸術大学などで非常勤講師。2017年7月よりアルジェリアの日本大使館で専門調査員として勤務予定。

## ニフエール

# イマージュ第3・4回公演

## 《音楽・版画・文学》

所克頼(サクソフォン)

伊藤美由紀(作曲)

若井真由夏(銅版画)

茨木博史(フランス語圏文学)

2017. 5. 13(土)

岐阜・音楽ホールサロンドルチェ 14:00 開演

2017. 5. 14(日)

名古屋・フィオリーレ音楽ホール 19:00 開演

## ご挨拶

本日はお忙しい中、ニンフェアール・イマージュ《音楽・版画・文学》第3・4回公演にご来場頂き、有り難うございます。

第1回公演から、フランス人作家による文学作品からインスピレーションを受けて作曲された新曲を発表するとともに、その作家と関連のある音楽作品を紹介しております。第1回目のヴィクトル・ユゴー編では、ユゴーの詩《夢想の坂》のイマージュから、伊藤美由紀が、アルト・サクソフォンの為の作品を作曲し、ユゴー研究を専門とする数森寛子による詩の解説により音楽と詩との関係を読み解きました。第2回目は、作家であり哲学者でもあるジャン＝ポール・サルトルの小説《嘔吐》からのイマージュにより、クラリネットの為に新作を発表し、仏文学者の茨木博史によるサルトルについての解説をして頂きました。今回は、第1回目のユゴーの詩によるサクソフォンの為の《夢想の坂》から、更にインスピレーションを得て制作していただいた銅版画の若井真由夏との新作とともに、仏文学者の茨木博史の解説、各々の制作者の解説により、《音楽＋版画＋文学》を、同時に多角的に味わいながら楽しんで頂きたいと思っております。

本年度ニンフェアール第13回定期公演《トリスタン・ミュライユ70歳記念公演：オンド・マルトノとピアノ作品集》は、10月1日(日)、愛知芸術劇場にて、オンド・マルトノの原田節、市橋若菜と、ピアノの内本久美を迎えて、ユニークな編成による企画を考えております。また、皆様にそちらの公演でもお会いできるのを楽しみにしております。

2017年5月13日  
ニンフェアール  
伊藤美由紀

## プログラム

### 1. ドビュッシー:《シランクス》(1913)

Claude Debussy (1862-1918) : *Syrinx*

### 2. アストル・ピアソラ:《タンゴエチュード3楽章》(1987)

Astor Piazzolla (1921-1992) : *Tango-Études - « III. Molto marcato e energico »*

### 3. バリー・コッククロフト:《ロック・ミー!》(2007)

Barry Cockcroft : *Rock me !*

### 4. 伊藤美由紀:《夢想の坂》(2014)

Miyuki Ito: *La Pente de la rêverie* pour saxophone alto

## 所克頼(サクソフォン)

Katsuyori Tokoro, saxophone

## プログラムノート

### 1. ドビュッシー:《シランクス》(1913)

フルート奏者、ルイ・フルーリーのために献呈されており、無伴奏フルートの為に書かれたドビュッシーの晩年の作品である。20世紀に入り、フルート・ソロの為に書かれた最初の作品でもあり、フルート奏者のレパートリーとして重要な作品となっている。フランス語の《シランクス》とは、ギリシャ神話のニンフ、シュリンクスのことであり、牧神の笛をも意味する。半音階が巧みに組み合わせられて、東洋的で神秘的な響きのする作品である。イマージュ第1回公演では、アルトサクソフォンにより、第2回公演では、クラリネットによる演奏でした。今回もサクソフォンによる演奏です。(伊藤美由紀)

### 2. アストル・ピアソラ:《タンゴエチュード3楽章》(1987)

タンゴとは今から約130年前にアルゼンチンの首都ブエノスアイレスなどで生まれたダンスの一形態である。スペインやイタリアからの貧しい移民の不平不満のはけ口として作られたタンゴであったが、タンゴの革命家と呼ばれたアストル・ピアソラはクラシックやジャズの要素を含ませながら聴くためのタンゴとして発展させていった。1987年に発表した《タンゴ・エチュード》は独奏フルートのために作られた6曲からなるもので、後にサクソフォン用が出版された。第3番は華やかなタンゴのリズムを持って始まる。独奏楽器のために作られているのではあるが、メロディーラインの中にも単音から紡ぎだされる和声を感じられる。(所克頼)

### 3. バリー・コッククロフト:《ロック・ミー!》(2007)

オーストラリア人サクソフォン奏者、作曲家であるコッククロフトはオーストラリアで学んだ後にフランス・ポルドーで現代曲を得意とするサクソフォン奏者ロンデックスらのもとで学んでいる。作品の数々はタイトルの時点で面白いものが多い。ケネス・チェ氏の委嘱によって2007年に書かれたこの作品は、ロック音楽の容赦なく激しいエネルギーやリズムやビートで埋め尽くされている。エレクトリックベース、ドラムセット、ディジュリドゥ(オーストラリア大陸先住民アボリジニの金管楽器、木製だが発音原理から金管楽器に分類、サクソフォンの逆!?)、ディストーションのかかったギター、これはもうまさしくロックバンドにちがいない。(所克頼)

### 4. 伊藤美由紀:『夢想の坂』(2014) アルト・サクソフォンの為の

この作品は、ユゴーの哲学が凝縮された難解な詩である『夢想の坂』からインスピレーションを得て書かれている。宇宙の万物の根源は数であるとするピタゴラス的な考えを含み、時間と空間の中に永遠という精神世界を見いだす。最初のセクションでは、冒頭4小節の音形が4回、装飾されたオブジェが挿入されながら変形されて繰り返される。エンディングにも、同じ音形が数回繰り返される。このように似たような音形が少しずつリズムを変えながら伸縮をすることで、ユゴーの世界を表現しようとした。所々に、ユゴーの詩のフランス語の断片を音楽に挿入し、音響的效果としても扱っている。(伊藤美由紀)